

～ 夢と現実、すべてが私にとっては夢でもあり現実でもあるのだ。～

第Ⅰ部・第Ⅱ部、総入れ替えで約 500 点出品。すべてを見ずにはられない。

開催要項

駒井哲郎 1920—1976

——こころの造形物語——

Tetsuro KOMAI Retrospective

展覧会名：駒井哲郎 1920—1976 ——こころの造形物語——

主催： 町田市立国際版画美術館、東京新聞

協賛： 資生堂

会期： 2011 年 4 月 9 日(土)～6 月 12 日(日)

【第Ⅰ部】4 月 9 日(土)～5 月 8 日(日)／【第Ⅱ部】5 月 11 日(水)～6 月 12 日(日)

* 第Ⅰ部、第Ⅱ部で全ての作品を入れ替え

* 月曜休館、5 月 10 日(火)は展示替えのため閉室

会場： 町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1 Tel:042-726-2771

* 小田急線・JR 横浜線 町田駅より徒歩 15 分

開場時間： 火～金 午前 10:00 ～ 午後 5:00(入場は午後 4:30 まで)

土・日・祝 午前 10:00 ～ 午後 5:30(入場は午後 5:00 まで)

観覧料金： 一般＝800(700)円 大・高生＝600(500)円 65 歳以上＝400(300) 中学生以下＝無料

* ()内は 20 名以上の団体料金

* 身体障がい者手帳または愛の手帳等をご持参の方と付き添いの方 1 名は半額

* 展覧会初日 4/9(土)と開館記念日 4/19(火)は観覧無料

☺ 【第Ⅰ部・Ⅱ部セット券割引】

第Ⅰ部展示期間中、第Ⅰ部・第Ⅱ部の観覧券をセットにして下記のような割引価格でご購入いただけます。
団体料金の設定はございません。

通常一般＝1600 円→1200 円 大・高生＝1200 円→900 円

65 歳以上＝800 円→600 円

【開催趣旨】

駒井哲郎(1920-1976)は見えるものを描いて、見えない心の内を表現することを追い求めた銅版画家でした。夢と実在の織り成すその表現は、見る者を空想の世界へと誘ってくれます。しかし、駒井が銅版画に描き出したイメージは、決して非現実的なものだったわけではありません。その表現世界は、人生への懐疑や日常の憂鬱感、ひそやかな期待や心の高揚感といったきわめて切実で真摯な、内なる心の状態の現れでした。それはまた、目を閉じたときに瞼の裏に微かに浮かぶ光の造形や、日常のなかで目にした現実としての幻影でもあったのです。駒井はそういったところの眼で見た現象や現実を、鋭い感性と熟達した技術によって銅版画へと移し変えることに成功した、まれにみる才能豊かな芸術家でした。

本展覧会ではそうした駒井の創造した世界を、資生堂名誉会長の福原義春氏が蒐集した、約 500 点という一級の大コレクションによってお見せします。また今回は、第Ⅰ部と第Ⅱ部、全作品総入れ替えの二部編成でご覧になっていただきます。両方の展示を見ることによって、慶応義塾普通部時代に制作した初期作品から、ルドンやクレールを解釈しながら独自の表現を生み出した 1950 年代の作品を経て、病に侵され、その心情を痛切に表現して終わる駒井の創造の軌跡を、はじめて見終えることとなります。

どうぞ、上・下巻の長篇小説を読むように、駒井が創造したところの造形物語を、はじめから終わりまで、じっくりと味わってください。

【展示作品・構成】

◇駒井哲郎の代表作や希少な作品からなる、資生堂名誉会長・福原義春氏蒐集の駒井哲郎作品(世田谷美術館寄託)を全 8 章で構成、全体で約 500 点を出品。

◇【第Ⅰ部】 第1章 銅版画への道(1935-1948 頃)、第2章 夢の開花(1948-1953)、
第3章 夢の瓦解そして再生(1954-1958)、第4章 充実する制作:詩画集「からんどりえ」まで(1959-1960)
の1~4章を中心に構成

【第Ⅱ部】 第5章 新たな表現を求めて(1961-1966)、第6章 充実の刻(1967-1970)、
第7章 未だ見果てぬ夢、色彩の開花(1971-1973)、第8章 白と黒の心象風景と乱舞する色彩(1974-1976)
の5~8章を中心に構成

【関連催事】

◇講演会

- ① 福原義春氏(資生堂名誉会長、本展覧会出品作品所蔵者)
2011年4月23日(土) 午後2:00~3:30 会場:美術館講堂
- ② 堀江敏幸氏(作家、早稲田大学文学学術院教授)
2011年4月30日(土) 午後2:00~3:30 会場:美術館講堂
* 手話通訳付 * 入場無料、ただし企画展ご観覧の方が対象です。

◇駒井哲郎愛用のプレス機をつかったデモンストレーション

実演:渡辺達正氏(版画家、多摩美術大学教授)
2011年5月4日(水・祝) 午後2:00~3:00 会場:2F ロビー(見学自由)

◇モノタイプで遊んでみよう!

2011年6月4日(土) 午後1:00~3:00(制作時間15分程度) 会場:1F エントランスホール
申込不要・先着順 * 子どもから大人まで楽しく遊べます。小学生以下は要保護者同伴。

◇館長によるスペシャル・ギャラリートーク

4月16日(土)、5月21日(土) 午後2:00より45分程度 *観覧券が必要です

◇学芸員によるギャラリー・トーク

4月10日、24日、5月1日、15日、29日、6月12日 各日曜日
午後2:00より45分程度 *観覧券が必要です。

◇美術館で語りあおう～トークフリーデー：展覧会初日を除く水、土曜日

「鑑賞のための静けさ」よりも作品をめぐる会話を楽しんでいただくという試みです。小さなお子さま連れの方も気兼ねせずにご入場下さい。

【インターネット関連】

町田市立国際版画美術館公式サイト

<http://hanga-museum.jp> (2011年3月1日新規スタート)

【同時開催】常設展示 西洋版画の世界—駒井哲郎の視点

4月6日(水)～6月12日(日)

【巡回スケジュール】

「駒井哲郎 1920-1976」展は、以下の開場に巡回します。

山口県立萩美術館・浦上記念館	2011年7月5日(火)～8月7日(日)
伊丹市立美術館	2011年10月29日(土)～12月18日(日)
郡山市立美術館	2012年1月5日(木)～2月12日(日)
新潟市美術館	2012年2月18日(土)～4月15日(日)
世田谷美術館	2012年4月28日(土)～7月1日(日)

【問い合わせ】 町田市立国際版画美術館 展覧会担当学芸員 滝沢恭司 広報担当学芸員 河野結美

〒194-0013 町田市原町田 4-28-1

Tel: 042-726-0860(学芸係) Fax: 042-726-2840

東京新聞文化事業部 担当: 垣尾良平、中田順子、森優美子

〒100-8505 東京都千代田区内幸町 2-1-4

Tel: 03-6910-2513 Fax: 03-3503-1438

◇駒井哲郎(こまい てつろう、1920-76)

戦後日本の銅版画のパイオニアとして表現の可能性を切り開き、後進を育て、日本に銅版画という芸術ジャンルを定着させた美術家。

1920(大正9)年6月14日、東京市日本橋区魚河岸(現・東京都中央区日本橋室町1丁目)に生まれる。1933年に慶応義塾幼稚舎を卒業、普通部に進級、図画教師仙波均平(せんばきんぺい)の指導を受ける。1935年、西田武雄発行の『エッチング』誌で銅版画を知り、西田主幸の日本エッチング研究所に日曜ごとに通い、銅版画の技法や素描の手ほどきを受ける。1938年東京美術学校(現・東京藝術大学)油画科に入学、1942年同校を繰り上げ卒業。同年東京外国語学校フランス語専修科に入学し、翌年修了。戦災により、油彩画や銅版画を焼失。1950年、春陽会展に銅版画9点を初出品、岡鹿之助に激賞され、一躍注目を集める。1951年、第1回サンパウロ・ビエンナーレでコロニー賞受賞、1952年、第2回ルガノ国際版画ビエンナーレで国際次賞を受賞、棟方志功とともにいち早く世界の舞台で高い評価を獲得した。1953年、初の個展を資生堂ギャラリーで開催。1954年、フランスに渡って長谷川潔を訪問、親しく指導を受ける。翌年帰国。1956年、南画廊開廊記念展で個展を開催。1970年、多摩美術大学教授(翌年辞任し非常勤講師)。1971年、東京藝術大学美術学部助教授となり(72年に教授)、初代の版画担当の専任教授として日本の現代版画を指導。1976年11月20日、舌癌肺転移のため逝去。享年56歳。